

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年6月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4091600157
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム西牟田
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市三潴町西牟田6323番地9 (電話) 0942-65-2150
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年5月23日

【情報提供票より】(平成21年5月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 10月 16日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 3人, 非常勤 16人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成21年5月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 80 歳	最低	60 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤吉内科医院、本荘歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は最寄の駅から近い閑静な住宅地にあり、平成18年に開設された社会福祉法人を母体とするホームである。周囲は木々の緑も豊かで自然に恵まれている。広々とした敷地に立てられた木調の建物は、バリアフリーで清潔で明るく、居室には洗面所やトイレが設置されている。職員は一人ひとりの生活習慣を大切に、事業所の理念に沿って「住み慣れた地域で、安心して快適に自立して暮らす」ことができるように支援している。利用者の表情は明るく、犬と一緒に散歩したり、歌を歌ったり、ゆつたりのんびりと一日を過ごしている。家庭的で開放的な雰囲気の中で、安心して自由に自分らしく生活できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受けて、介護計画の作成や見直しについて改善が行われている。職員の交替により未達成の課題もあるが、利用者や家族の希望や意向を踏まえて職員で話し合いを行い、一人ひとりの生活習慣を大切にしながら前向きな介護計画を作成している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は、評価をケアの向上のためには必要不可欠なものとして認識し、全職員で自己評価に関わり、管理者や介護支援専門員がまとめを行い作成した。その関わりの中で日頃の介護の振り返りや新しい気づきがなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族、地区会長、民生委員、婦人会代表、市の担当職員、ホーム職員が参加して、3、4ヶ月に1回行われている。会議にはホームの状況、運営や行事へ取り組み等の報告を行い、意見や提案をいただいている。今後は外部評価などの報告も行い、意見をサービス向上の実践に活かすことが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	月に1度は家族の来訪があり、職員は利用者の健康状態や日頃の様子を報告して、金銭出納帳の確認をしてもらっている。外出時の利用者の写真をホールに掲示し、利用者に変化があったときは速やかに電話連絡を行っている。玄関に意見箱を設置しているが、職員は積極的に家族の意見や要望を聞くように心がけている。家族会の設置などが検討されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の人々とは散歩や買い物の折に挨拶を交わし、踊りや散髪ボランティア訪問を受けている。また、ホームの夏祭りには地域の人々が多数訪れている。町内会には入っていないが広報紙を回覧してもらい、災害時は避難場所として近くの公民館を提供してもらう約束もあり、地域の受け入れ態勢は良好である。しかし、以前は行われていた地域行事への参加が少なくなっている。積極的にホームの外へ出て交流することが望まれる。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時から「自立、快適、安心」という関連グループホーム共通の理念を掲げている。住み慣れた地域で、家庭的な雰囲気の中で自立した自由なゆとりとした生活ができるよう、安心と笑顔のある暮らしを支援目標としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はスタッフルームの見やすい位置に掲げられており、朝の申し送り時に唱和し意識を深めている。管理者や職員は、職員会議等で日頃のケアの検討を行い、日々の介護の場面で実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々とは買い物や朝の散歩時に挨拶を交わし、踊りや散髪ボランティア訪問を受けている。またホームの夏祭りに招待し交流している。しかし、自治会や地域行事への参加はなく、老人会、幼稚園や保育園等の交流もこれからの課題である。	○	運営推進会議で提案された地域交流の意見を活かし、職員全員で検討して地域の祭りや運動会などの行事や地区の清掃活動などに参加し、地域とのつながりを深めることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員とも評価の意義を理解して自己評価に取り組み、日常ケアの気づきや振り返りがなされている。しかし、管理者や職員の異動もあり、前年度の調査結果は職員や運営推進会議に報告されておらず、サービス向上の取り組みに活かされていない。	○	外部評価は運営推進会議、職員、家族にも報告して職員全員で検討し、自己評価で得られた気づきを踏まえてサービスの質の向上に活かす取り組みが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3、4ヶ月に1回開催され、家族代表、地域の区長、民生委員、婦人会代表、市職員などの参加がある。ホームの運営や行事、利用者の状況などを報告し、いろいろな意見や提案を聞いている。また会議内容は職員にも報告しているが、提案を受けての運営やサービス向上の取り組みが見えない。	○	運営推進会議で提案された意見を活かし、職員全員で検討して地域交流や2ヵ月毎の運営推進会議の開催、外部評価の報告など、できることからひとつずつ実践に取り組まれることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に関する法律相談や手続き、介護保険の更新申請などで市役所の支所を訪問し、相談や情報提供、意見の交換を行っている。また、必要に応じて電話で市の担当者に相談している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について管理者や介護支援専門員等は十分理解している。外部研修に参加した職員が職員会議等で報告伝達しているが、全職員が理解しているとはいえない。今まで利用した人はいないが、活用に必要な資料の準備や家族等への啓発も行っていない。	○	制度について職員の理解を深めるとともに、家族への啓発に努め、事業所には具体的な活用方法や関係機関などの資料を準備して、いつでも必要な人へ支援ができるよう取り組むことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者や担当職員は家族の訪問時に利用者の日頃の様子を報告し、定期外の病院受診や体調に変化のあった時は速やかに電話で連絡を行っている。金銭管理報告書は請求書と共に毎月郵送し、家族の訪問時に確認してもらっている。また職員異動時には紹介や挨拶を行っている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や介護計画の更新時には希望や意見が言いやすいように積極的に話を聞くようにしている。必要時は電話でも意見を聞くようにしている。玄関には意見箱を設置し、家族の意見を取り入れるため家族会の設立も検討している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響がないようにユニット間の異動は最小限にとどめている。離職の場合は引継ぎを十分に行い、新入職員は業務マニュアルに沿って先輩職員と共にケアに当たるようにしている。また利用者の家族へ報告挨拶の手紙を出し、利用者と一緒に会話するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用・募集に際して性別や年齢の制限はなく、職員の年齢構成も幅広い。職員の希望を取り入れた勤務表が生まれ、勤務交替にも柔軟に対応している。職員は趣味活動に参加したり、働きやすい職場環境作りが行われている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員会議でビデオを活用した人権学習を行い、外部研修に参加している。また管理者は日常生活の中で、利用者に対する言葉づかいや対応に気をつけ、その都度職員に指導注意を行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的ではないが月に1度の職員会議で勉強会や研修報告を行い、職員の資質向上を図っている。また、管理者は外部研修や資格取得のための情報を提供し、希望者には参加しやすいように勤務の調整を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内のグループホームとの交流はあるが、他の事業所との交流機会はなく、市のグループホーム連絡協議会にも登録していない。	○	市のグループホーム連絡協議会に登録し、勉強会や研修会に参加したり、他事業所との相互訪問や見学の機会を持ち、情報交換を行いサービスの質の向上を図る取り組みが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅や病院へ訪問して本人や家族から話を聞き、見学や体験入居を利用して納得した上で入居できるように支援している。入居後は話を聞く時間を多く取り、好物を献立に載せるなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として接し、ともに過す生活の中で昔の話を聞いたり、料理を教えてもらったりしている。話の中でその人柄の新しい発見をすることもあり、利用者の思いを受け止めながら会話を楽しんでいる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の暮らしの中での会話の中から利用者の思いを組み取ろうと努力しており、気づいたことは申し送りノートに記入し話し合いの議題に取り上げている。また、言葉の出にくい利用者には、ゆっくり時間をかけて意向を聞き取るように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中での気づきや家族・利用者の要望や意向の聞き取りを踏まえた上で、会議で職員のアイデアや意見を出し合い介護計画を作成している。家族には訪問時に説明を行い、遠方の家族には郵送して計画の承認を受けている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月職員会議で評価をするとともに、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。本人や家族の希望や利用者の状態変化に際しては、随時関係者と協議して介護計画を変更している。重要なケアの変更時は、申し送り伝言板を利用して職員に周知徹底を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は利用者の希望により一緒に買い物に行ったり、自宅近くへドライブに出かけている。家族が対応できない時の通院に付き添い介助を行っている。また、利用者の希望で手紙の代筆を行うこともあり、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業者は入居時に家族へ協力医院の定期的な往診体制や急変時は24時間往診可能であること、病状により市内の救急病院へ紹介することなどを十分に説明しており、本人や家族は検討してかかりつけ医を決めている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、事業者としては終末期のケアは行わない方針である。入居時に利用者が重度化した場合にホームでできる事とできないことを明確にし、家族に終末期ケアは行わないことを説明し納得してもらっている。職員はこの方針を熟知し共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重して言葉かけには充分配慮している。排泄も各居室にトイレがあり、可能な限り自室で行われている。また個人の記録物は鍵のかかる書庫に保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、起床や就寝の時間は決まっておらず、食事の時間が近づく自然に利用者が集まってくるようなゆったりとした時間が流れている。天気の良い日は散歩に出たり、皆で歌をロザさんたり、利用者は思い思いの時間を過ごしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が立てた1週間の献立はあるが、その日の利用者の希望でメニューが変わることもある。料理の得意な利用者に献立の助言をしてもらったり、野菜の下拵えと一緒にいたりしている。利用者は能力に応じてテーブル拭きや配膳などの役割を分担し、日々その力を発揮している。職員も同席し一緒に食べている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	平日は10時から15時に入浴時間を設けているので、安全に配慮しながら利用者は自由に入浴している。入浴を好まない利用者には、タイミングや表情を見ながら「一緒に入りましょう、着替えをしましょう」等と声かけを行い、入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの能力に応じておしぼり配りや洗濯物たたみ、草取りなどを日課にしている。細かい作業が好きな利用者には鉢を渡し、趣味を楽しんでもらっている。また、花や紅葉の時期には全員でドライブに出かけ、日帰りの温泉旅行など利用者には喜ばれる支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの広い庭を自由に散歩したり、犬の好きな利用者は職員と一緒にホームで飼っている犬の散歩に出かけている。ホームの近くにはお店がないので、希望があればスーパーまで車で買い物に同行するなどの外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は開放し、居室にも鍵の設置はなく、センサーも使用していない。職員は見守りを行っており、利用者はいつでも自由に庭の散歩に出られる。鍵の必要のないケアが行われている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼間と夜間を想定した訓練を消防署の指導により行っている。職員は避難経路を認識しており、ホームには通報システムを設置している。運営推進会議で近くの公民館を避難場所として提供を受け、スプリンクラーの検討をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、排尿、排便を毎日個別にチェックシートに記録し、食事が入らない時は、本人の嗜好に合わせて補食を準備して補っている。また、定期的に血液検査や体重測定を行い、栄養状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の南側は広い庭になっており、明るい陽射しが差し込んでいる。居間には大型のテレビや座り心地のよいソファが置かれている。一部は畳の間となっており、横になって寛げる空間も工夫されている。季節感溢れる飾り付けがなされ、壁には外出時の楽しげな利用者の写真が飾られ、暖かい雰囲気が漂っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室のベッドとクローゼットは備え付けであるが、本人や家族が仏壇、タンス、テレビなどの思い思いの馴染みの品を持ち込んでいる。利用者の生活感が溢れた部屋となっており、さながら自宅の自室のような居心地の良い空間となっている。</p>		